

## 図書館だより

秋田大学附属図書館

附属図書館ホームページ

<http://www.lib.akita-u.ac.jp/>

医学部分館ホームページ

<http://libra.med.akita-u.ac.jp/>

古城を偲ぶ 70年前の思い出(グランマー・モーゼスにならって)2  
 天上 影は替らねど、栄枯は移る世の姿 .....晩翠

秋田大学名誉教授 山本穆彦氏：画

## 目次

オハイオ州立大学の図書館を利用して	中村 雅英	2
ガリレオ関連コレクションの公開と講演のお知らせ		3
心に残る一冊(34)	ヨハネス・ウィルヘルム	4
心に残る一冊(35)	萱場 広之	5
心に残る一冊(36)	加藤 純雄	6
ご存知ですか“機関リポジトリ”		7
トピックス 「子ども見学デー」/新人紹介		8
電子ジャーナル説明会報告/統計		9
本学教員等著作寄贈図書紹介/研修報告		10
医学部分館コーナー		11
図書館カレンダー/編集後記		12

# オハイオ州立大学の図書館を利用して

館長補佐 中村 雅英



今から数年前、アメリカ・オハイオ州にあるオハイオ州立大学に10ヶ月間滞在する機会を得た。実は、それ以前にカナダのウエスタン・オンタリオ大学に1ヶ月滞在した経験があったので、何とかなるだろうという軽い気持ちで出発したのが失敗のもとで、毎日が驚きと戸惑いの連続であった。特に和食が大好きで、米と味噌汁が無くては生活できない私にとっては苦勞することも多かった。しかしそのような生活にも次第に慣れ、アメリカでの研究も少しずつ軌道に乗ってきた。そして文献調査のために、オハイオ州立大学の図書館に通うようになった。

オハイオ州立大学はアメリカでも屈指の大規模校である。そのため、図書館の規模が大きいことは当然のことであるが、同じ敷地内にあるにもかかわらず、複数の建物に分散していた。そしてどの図書館も多くの学生や教職員でいつも混雑していた。私もすぐ図書館の雰囲気になじみ、毎日のように通うようになった。なんととっても欧文雑誌が充実しており（あたりまえか）日本ではほとんど見たことの無い雑誌も自由に読むことができた。そのうち私は不思議なことに気づいた。当然購入されていると思っていたアメリカ機械学会論文集（Transactions of the ASME）が無いのである。不思議に思った私はすぐに受付のところに行き、質問した。すると、身分証明書を提示したら見せるとの回答であった。なぜこのようなことになっているのかは今でもよく分からないが、私の下手な英語にも親切に答えてくれる受付の対応で、より図書館の印象が良くなった。

さて図書館通いにも慣れたころ、私は日本語の雑誌も数冊購入されていることを知った。私の専門外

の分野の雑誌ではあったが、日本語の雑誌を見つけたときには大変驚いた。確かにオハイオ州立大学には、日本人の留学生や教員もいるが、その数が全体に占める割合は決して大きいとは言えず、はたしてこの雑誌がどの程度利用されているのか疑問に思った。ただこれらのことから、図書館が利用者の便宜を図り、さまざまな利用者の要望に答えるよう努力していることが強く感じられた。一利用者に過ぎない私には、図書館がどのようにして運営されているのかはまったく分からなかったが、滞在中、非常に気持ち良く利用させていただいた図書館に対しては、良い思い出しか残っていない。

最後にもう一つ、私が驚いたことについて書くことにする。オハイオ州立大学のあるオハイオ州・コロンバス市は、比較的治安の良いところであるが、深夜になるとやはり安全とは言い難くなる。そのため、図書館で夜遅くまで勉強している学生（特に女子学生）はどうやって危険から身を守っているのか不思議に思った。後日、大学には特殊な訓練を受けた警備員がいて、学生から連絡があると警備員が同行し、安全に帰宅するところまで付き添うというシステムがあることを知った。治安ということは、アメリカでは避けては通れない問題であり、キャンパス内も例外ではない。実際、私がオハイオに行ってもまもなく、キャンパス内の駐車場で女子学生が誘拐されるという事件があった。このような理由から、このシステムが必要になることは仕方の無いことであるが、秋田大学においては、いつになってもこのようなシステムは不要であって欲しいと思いつつ、オハイオを後にした。

（なかむら まさひで 工学資源学部機械工学科 教授）

# ガリレオ関連コレクションの公開と講演のお知らせ

このコレクションは天文学史に名を残すGalileo Galilei (1564 - 1642) の著作や関連する資料の収集家加賀谷長之様より当図書館へ寄贈されたものです。

2006年7月7日、図書館ブラウジングコーナーにて寄贈式典が執り行われました。

式典の様子や寄贈資料の詳細は図書館HPの

Newsletter No.10やコレクション案内ページをご覧ください。

これを記念して、来る10月21日の秋大祭に図書館特別企画として教育文化学部の上田晴彦助教授による講演や今回寄贈された資料の展示会を開催いたします。多くの方々の来館を期待します。



## 『何故ガリレオか』

中学生のとき、天文少年であった私が、熱心に観測を続けるうちにガリレオを知り、観測ノートに「ガリレオのような天文学者になりたい」と書いている。その夢は高校2年ではかなく消えたが、ガリレオへの思いは捨てがたく、以来、趣味である切手と本の収集においてガリレオ関連のものを集め続けている。

切手は、自分の知る限り世界各国発行のガリレオ切手を全部集めることができた。

本は、ガリレオの2大著書である「天文対話」と「新科学対話」の原書の初版本が最大の目標であった。

(加賀谷長之)





## シシュフォスの 苦難と幸福感



アルジェリア生まれのフランス人  
アルベール・カミュ  
Albert Camus (1913 - 1960)

Johannes H.  
Wilhelm

A.カミュの『異邦人』を十三歳で初めて読んだ。当時は、殺人犯として牢屋で死刑を待ちながら考察する主人公が印象的であった。周囲の知人に対してはおろか、母の葬式のときでさえも感情表現が苦手で、ごく平凡な生活を送る恬淡な主人公が、殺意もなく太陽の眩しさを理由に殺人を起こすのだが、何かと現代の日本を思わせるストーリーだ...珈琲の染み痕や本文の端に残っている子供っぽい書き込み。思い出が沢山収まっているこの一冊は、子供から大人に脱皮して行くきっかけであったかも知れない。

1990年秋にハンプルク大学に入学した。湾岸戦争の綱引きが繰り広げられたこの頃、学生・教員は連日近くの大通りで反戦デモに参加していた。所属の哲学講座は休講が続き、再びカミュが気になり祖母にエッセー集を借りた。米軍がイラクを相手にした戦いの前夜の寒い時期に読んだせいも、太陽に照らされながら生活するアルジェリア人の叙事と叙情は現在も鮮明に覚えている。カミュの作品を通して人間存在の矛盾と希望を象徴するのが太陽である。それはH.イプセンの戯曲『幽霊』の終幕で、死んでいく主人公がうわ言のように『太陽...太陽...』と繰り返す台詞と通ずるかのようだ。得られない物を探めていく人間は、憐みの存在に過ぎないのであろうか。

1957年ノーベル文学賞を授与されたカミュは、独

自の非暴力的なニヒリズムを創作し、不可思議な経緯の中、車で木に衝突して他界した。彼は第2次世界大戦中、仏国を占領したナチスに対する抵抗に参加したが、出版から半世紀以上経った今も新鮮な長編小説『ペスト』が、戦争経験の咀嚼である。

廊下の一角にあるみすぼらしい鼠の死体は、舞台である1940年代の北アフリカのオランの町を黒死病の危機に追い込む微かな前触れで、他方への伝染を防ぐために住民は町内に監禁され孤立状態となる。外部から遮断された中、語り手の医師は少数の住民と共に、懸命に絶望的な救済活動を試みるが、焼け石に水にすぎない。結末は、市民が苦難を乗り越えて喜んでいる中、リウー博士に運命の重みと存在の不条理を経験させる出来事が待ち受けている...

人はそれぞれの『心に残る一冊』を人生発展の諸段階で、ときには思いがけず発見するが、自然に転がってはこない。心が全く同じ人間はいないので、他人に教えてもらう意義もない。重い岩を何度も山頂へ転がす苦しみとその不条理な存在を悟って得る密かな幸福感、それが『心に残る一冊』の探求と終わりのない行為としての人間存在を表す『シシュフォスの神話』の共通点かも知れない。

(ヨハネス・春水・ウィルヘルム 秋田大学 ドイツ語教員)

カミュの諸作品は958!!C14のカミュ全集(本館開架図書1F)や書庫に原書も含めて所蔵されています。



## 寺田寅彦随筆集

岩波書店



萱場 広之

学生の皆さんはともかく、少なくとも昭和50年前後に大学受験をされた方々のほとんどは竹内均先生をご存知と思う。先生は昭和56年に東京大学理学部（地球物理学）教授を退官されている。

大変な教育熱心で知られ、受験参考書やテレビ番組を通じて科学者の卵の育成にも力を注いでおられた。かく言う私も高校生の頃は竹内先生が解説される高校講座・物理を見ていた一人である。べっ甲の幅広の縁の眼鏡をかけた紳士がやや鼻にかかった声色で講義をする。毎回主題の変わる講座で一貫して語られていたのは、科学の楽しさであったろう。先生の表情や語り口から、未来の科学者の育成にかける気持ちが伝わるような気がして、思わず引き込まれるのである。

竹内先生は自分が物理学の研究者を志したきっかけについても繰り返し語った。それは、旧制中学（高校）2年の時に読んだ寺田寅彦の随筆「茶碗の湯」である。寺田寅彦は1878年（明治11年）に生まれ、東京帝国大学の物理学教授として活躍する傍ら、詩人・文学者として数多くの詩歌・随筆を残し、1935年に没している。寺田寅彦と竹内先生はおよそ40歳の差があるから、竹内青年が志を立てた頃には寺田寅彦はすでに東京大学教授として、また、文学者としても名を為した後で、そ

の没年からしても竹内青年が直接寺田寅彦に師事することは無かったはずである。

さて、「茶碗の湯」であるが、内容は聞きかじっていたものの、実物を読んだのは、ずっと後になってのことである。茶碗に注がれた湯の観察から知ることのできる数々の現象について語られ、何気なく目に映るものに多くの真理や不思議があることが淡々と書かれている。「茶碗の湯」に限らず、氏の随筆は科学者としての万物に対する幅広い興味と観察、そして慈愛に満ちた視線を通して語られる。さらりとしながら深い味わいがある。夏目漱石に師事したとされる解りやすい文体や、寢床に入ってから決して長くはない時間で一話が完結するのも嬉しい。

竹内先生は退官後20年以上にわたって科学雑誌「ニュートン（Newton）」の編集長をされ、2004年4月に83歳でお亡くなりになった。寺田寅彦の随筆集を手にとると、竹内先生に重なって高校時代の恩師や風景がとりとめもなく湧いてくる。遠い郷愁とも違う、何やら不思議な気持ちになるのである。

（かやば ひろゆき 医学部医学科 統合医学講座臨床検査医学分野 助教授）

この随筆集は081.6::Te43（本館開架図書1F）寺田寅彦全集に収録されています。



# 「化学・意表を 突かれる身近な疑問」

日本化学会編・講談社ブルーバックス



加藤 純雄

東京への出張の際に、時間に余裕があったので、当時の学生に誘われて上野の国立科学博物館にいったことがある。本館は改修中で、新館のみの見学になったが、実際の物質の入った元素の周期表から恐竜の骨格模型までゆっくりと見られ、楽しい時間を過ごした。

このような科学館の目的のひとつは、様々な科学（技術）を一般に広く紹介することであり、科学への関心をもつきっかけになっていると思われるが、身近にある自然現象や機械（たとえば自動車）などがそのきっかけになることもある。筆者も明確な記憶があるわけではないが、子供のころは、自動車の整備士になりたいといっていたそうだ。あるときは、どうして音がでるのか不思議で、トランジスタラジオを分解してみたりもした。現在は化学に関する研究をしているが、化学製品となると、ドライバーで分解するわけにもいかず、その仕組みを眺めることも容易ではない。

ここに紹介している本は、身近な現象を化学の観点から、やさしいことばで解説を試みているものである。副題にある「昆布はなんでダシが海水

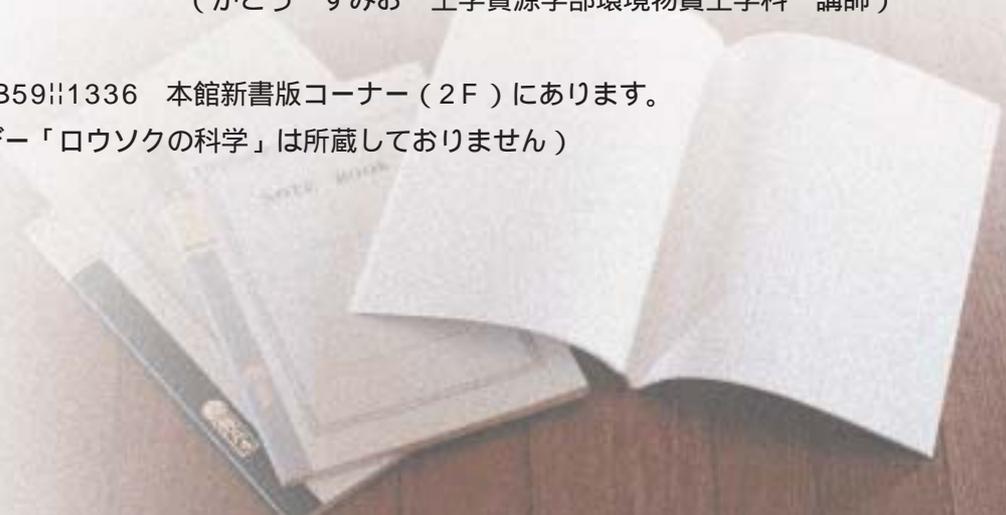
に溶け出さないの？」など、言われてみればなぜだろうと思わせる多くの疑問について、親子の会話形式で説明している。そのため、内容についてもう少し詳しく知りたいと思う部分もあるかもしれないが、この本が化学に触れるきっかけの提供を主眼としていると考えればよいのだろう。同様に化学に触れるための本としては、イギリスの科学者マイケル・ファラデーのクリスマス講演をまとめた「ロウソクの科学」（角川文庫ほか）が知られている。内容はロウソクの燃焼という現象を取りあげて、その現象が起きる仕組みを化学的な実験を交えて丁寧に説明しているものであり、前述の本とは対照的であるが、きっかけからさらに科学の奥深さをのぞかせてくれる。

知識が少しは増えた今になっても、さまざまな機械や現象の仕組みをやさしく説明してくれる本は面白い。また、化学においては、報道では環境問題など、化学が直面している難しい問題の部分が取り上げられることが多いが、それ以上に身の回りの生活に不可欠な部分が多くあることも、知ることができる本である。

（かとう すみお 工学資源学部環境物質工学科 講師）

標題の本は080||B59||1336 本館新書版コーナー（2F）にあります。

（ファラデー「ロウソクの科学」は所蔵していません）



# ご存知ですか？

## 機関リポジトリ (Institutional Repository : IR)

・各大学図書館等がその所属機関の電子化された\*教育研究活動成果を収集・保存し、公開するためのインターネット上の電子書庫です。(全国の大学図書館等で立ち上げられており、当館でも取り組みを進めています。 参照：<http://www.nii.ac.jp/irp/info/list.html>)

・収集された研究成果は

\*メタデータを付与され、\*OAI-PMH対応サーバに格納され、本文情報の検索・閲覧ができます。論文検索サイトにメタデータが収集・登録されることにより、内外に情報が発信され、視認性とアクセシビリティが向上し、(IRは)大学の知的成果のショーウィンドウの役割を果たします。

### 【研究者にとって】

- ・研究成果の新しい発信の場ができます。(学術雑誌掲載論文の著者所有最終稿の公開も可能)
- ・無償公開(Open Access)により論文へのアクセスが向上し、論文の被引用度が向上します。

### 【大学にとって】

- ・学内に散在する学術生産物の一元的管理・恒久保存ができる。
- ・知的成果の社会への還元で産学連携、地域貢献の推進が図れます。
- ・大学研究教育活動の社会への説明責任の役割を果たせます。

\*教育研究活動成果 (著作権を当該大学・機関あるいは所属の研究者が保有しているもの)

図書・雑誌、各種論文(学術雑誌掲載論文・学位論文・紀要論文・プレプリント・会議発表論文...)

各種報告書(科学研究費報告書・研究プロジェクト報告書)、プレゼンテーション資料

教材、知的財産(特許・ソフトウェア)、サイエンスデータベース、文化財データ ... etc.

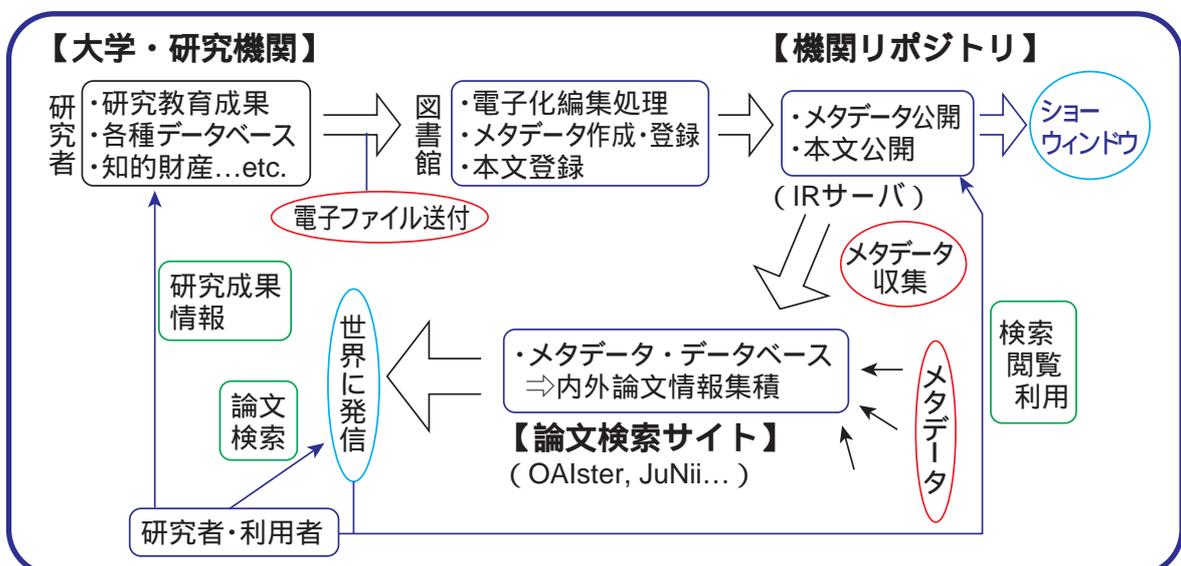
\*メタデータ (Metadata)

電子情報(データ)を記録するために付与されたデータ(電子資料の目録データ)

電子資料を検索する際の索引、キーワードになります。

\*OAI-PMH (Open Archive Initiative - Protocol for Metadata Harvesting)

メタデータを機械的に一括収集するための標準プロトコル



# トピックス 【子ども見学デー】

8月21日（月） 本学にて昨年に引き続き、子ども見学デーが開催され、図書館にも約20名の親子の皆さんが見学に訪れました。

石川館長の挨拶のあと、館内見学で自動貸出装置や電動書庫、情報検索コーナーのパソコンで電子図書を体験していただきました。



## 新人紹介



杉山 禎広

今年の4月から医学部分館で働いております杉山禎広と申します。仕事は主に図書の受入を担当しております。お隣り青森県からやってきまして早や5ヶ月、ようやく秋田での生活にも慣れてきました。生活には慣れましたが、仕事の方はまだまだで、己の勉強不足から利用者の皆さんには多々ご迷惑をおかけしております。

利用者の方からせつかく質問を受けても、医学に関する基本的な用語を知らないために、こちらが質問する時間の方が長いといったことが多く、反省することしきりです。少しでも早く利用者の皆さまのお役に立てるよう日々研鑽していかなければならないと考えております。

幸い、ここ秋田県は菅江真澄、内藤湖南、狩野亨吉といった学者を多く輩出している土地ですので、私もそのような方々にあやかり、大いに勉強していきたいと思っております。まだまだ未熟者ですが、これからどうぞよろしくお願いいたします。

（すぎやま ただひろ 医学部分館図書係）

# 平成18年度電子ジャーナル東北地区説明会報告

事務長補佐 小林 清

去る7月31日(月)に東北大学附属図書館において、平成18年度電子ジャーナル東北地区説明会が行われ、東北地区7大学より34人が出席した。はじめに野家東北大学附属図書館長の挨拶のあと、講師の土屋俊千葉大学附属図書館長から、プロジェクトを使って電子ジャーナルタスクフォースの説明があった。

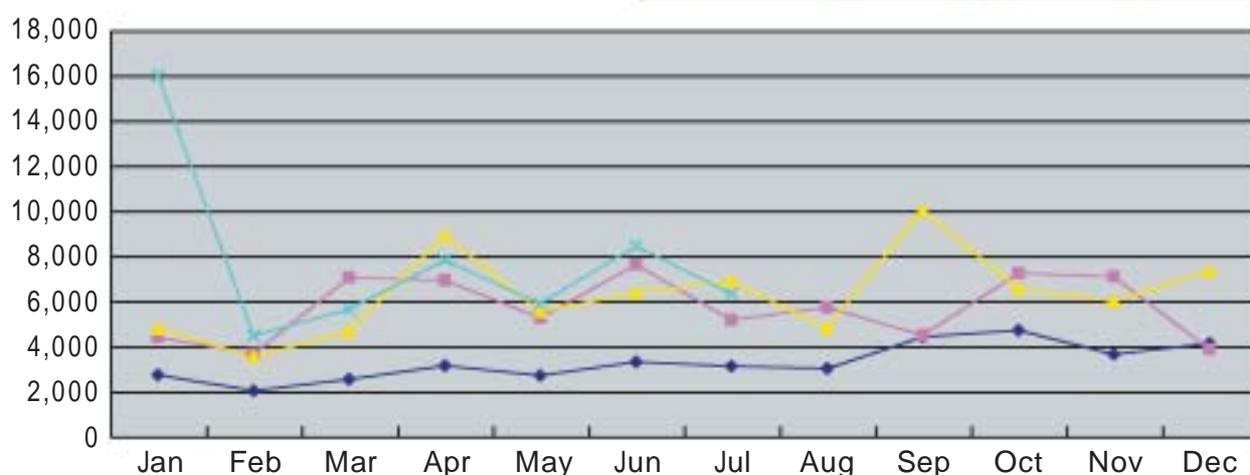
その中で、国立大学における電子ジャーナル導入状況では年々タイトル数は増えているが、外国雑誌購入経費は減少している。また電子ジャーナル導入により、文献複写件数が減少し、その種類も外国雑誌から国内雑誌へシフトしてきている状況が統計で示された。(本学の場合は下記統計参照)

また現在までの各出版社との協議経過が話され、今後の予定では秋ごろまでに最終提案を詰めることとしていると報告があった。

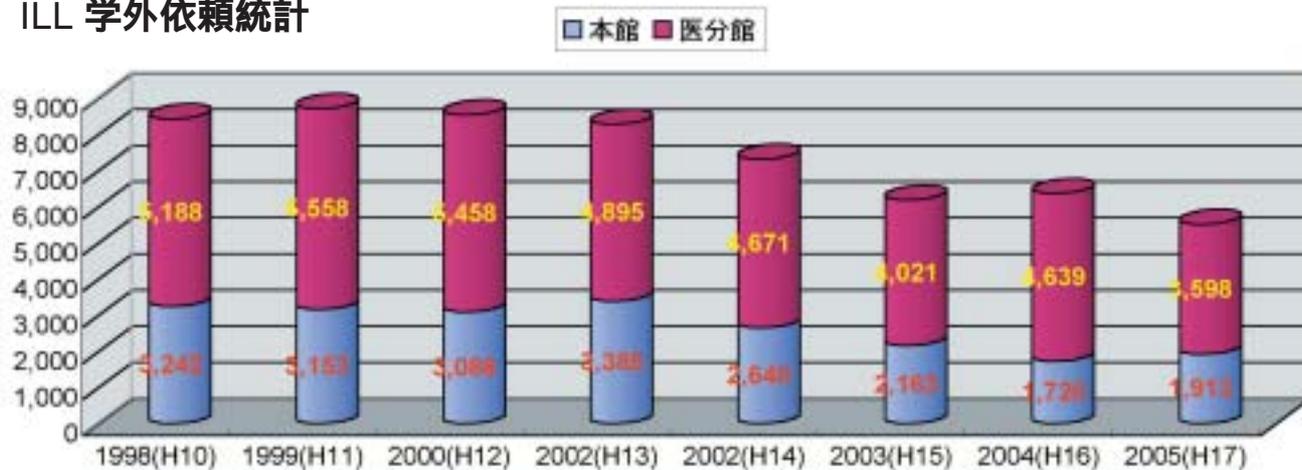
この説明会に参加した各大学でも大いに参考になったと思われるし、本学でもこれらの説明会の内容をこれからの電子ジャーナルのあり方に生かしていきたい。折しも今、本学では電子ジャーナル検討ワーキングが始まり、2008年からの電子ジャーナルのあり方を検討している。

大学として、学術情報の安定的な確保は必須であるが、毎年の予算削減の折から効率のよい購入方法など緊急に解決策を検討しなければならないと強く感じた説明会であった。

Science Direct Fulltext 利用統計



ILL 学外依頼統計



## 本学教員等著作寄贈図書紹介

教育文化学部 欧米文化講座 佐々木和貴先生

書名：食卓談義のイギリス文学

著者：圓月勝博編集 佐々木和貴他執筆

出版情報：彩流社 2006年8月

内容：初期近代イギリスの「食卓談義」から文学サークルの歴史とそこから生み出された言説の系譜をたどる。

本学関係教員等の著作物（共著、分担執筆、編集、翻訳など含む）を収集しています。ご出版の折はご寄贈くださいますようお願いいたします。



## 研修報告 平成18年度目録システム地域講習会図書コース

医学部分館 杉山 禎 広

皆さんはNACSIS - Webcat というサイトを利用されたことはありますか？これは、読みたい資料（図書・雑誌など）がどこの大学図書館にあるか調べられるという便利なサイトです。日本中の大学図書館及び一部の公共図書館から寄せられた情報で作られたデータベースですので、秋田大学のOPACで探すものがヒットしなかった場合、Webcatを使うと多くの資料がヒットします。何か気になることや調べたいことがありましたら、こちらでも文献を検索してみてもいいでしょう。

“日本中の大学図書館及び一部の図書館から寄せられた”と書きましたが、このサイトは図書館側からデータを提供し合うことによって成り立っています。というわけで、間違っただデータを提供したり、自分達にしか意味が伝わらないようなデータ作成の仕方をしますとデータベースの質が下がります。その結果、資料検索に労力を要し、研究の効率が低下したり、最悪の場合必要な文献にたどりつけない、といったことにもなりかねません。そのような事態を避け

るため目録作成の基本的な技術や約束事を教える講習会が各地で開かれています。前置きが長くなりましたが、それが今回、私が受講する機会を得た「目録システム地域講習会」です。

私は、6月28日から30日まで東北大学で行われた講習会に参加させていただきました。総勢16名、大学図書館のほか高等専門学校や県立図書館からの受講者もありました。どの方からも所属機関の目録システムを背負って立つという意識が感じられ、非常に刺激となりました。

講義は、目録システムの概論から始まり、目録検索、目録作成とその登録の仕方まで行なわれ、講師の皆さんも生徒方の熱意に負けない位の熱心さでご指導してくださいました。また、通常のカリキュラムの内容だけでなく、最新の図書館界の動向・問題・今後の課題などもご紹介していただき、常に問題意識を持ちながら働くことが大事だと強く感じました。

今回勉強したことを活かして、教員や学生の皆さんの研究がスムーズに進むよう、精一杯サポートさせていただきたいと思います。

# 医学部分館コーナー

## News

### ただいま医学科6年生を対象に特別利用を試行しています

分館では、これまで本学の教職員及び院生の希望者にも特別利用カードを配布し、図書館閉館後も入館可能にしておりましたが、学生の要望を受け、まずは医学科6年生に対して特別利用を試行することにしました。

#### 現在までの利用状況

	利用者数	一日平均利用者数
1週目	25	3.5
2週目	19	2.7
3週目	45	6.4
4週目	67	9.5
5週目	202	28.8
6週目	264	37.7

**期 間**...平成18年7月18日から平成19年2月中旬まで。ただし12月29日から1月3日にかけては利用不可。

**時 間**...閉館後から午前0時まで。

**禁止事項**...火気の使用、ブラウジングコーナー以外での飲食、窓の開錠（非常時を除く）、荷物の放置、1階第2閲覧室・2階研究者用閲覧席の利用。

**利用上の注意**...閉館後は職員がいなくなるため貸出、学外複写文献の引渡し、プリンターの使用はできません。パソコン、コピー機、エアコンは使用できません。

(上記内容は、試行中の医学科6年生に対してのみの事項です。)

○利用者は、週を追うごとに増え続けており、医師国家試験が近づくにつれてさらに増えると見込んでいます。

○現在まで、照明やエアコン等の消し忘れ、ブラウジングルーム以外での飲食の形跡、0時を過ぎての利用、窓の開放、荷物の放置等はほとんど無く、マナーを守ってご利用いただいています。

○次年度以降の利用については、今回の試行結果を踏まえて決定されます。



入退館の際に使われるカードリーダー

## 報告

### 分館では初めてとなる図書館ツアーを行ないました

医学部分館では5月17日から全6回、これから分館を利用することになる医学科2年生、保健学科1年生を対象に図書館ツアーを開催しました。このツアーでは実際に館内をまわりながら、図書館を十分に活用するためにも、ぜひ知っていただきたい基本的な利用方法の説明を中心に、施設案内、意外と知られていないサービスの紹介などを行いました。

参加者数は当初の見込みより少人数ではありましたが、熱心な方々にご参加いただき、寄せられた質問もOPAC検索に関すること、館内のパソコンの利用方法、学生希望図書リクエストに関することなど様々で、利用者がどういったことに疑問や興味を抱いているのかを、改めて知る良い機会にもなりました。今後は多くの方々に参加していただけるよう、開催時期の検討や、内容の見直しを図っていきたいと思います。



ツアーの周知に使われたポスター

# 平成18年度秋田大学附属図書館開館カレンダー

## 本館

10月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

10/1 後期開始

11月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

12月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

12/26 冬季休業開始

1月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

1/8 冬季休業終了

2月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

2/23 春季休業開始

3月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

3/31 後期終了

**date** 平日 8:30~21:00 **date** 土曜・日曜・休日 10:00~17:00 **date** 長期休業期間等 8:30~17:00 **date** 休館

## 分館

10月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

11月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

12月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

12/23 冬季休業開始(医学科)  
12/26 同上(保健学科)

1月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

1/8 冬季休業終了(医学科、保健学科)

2月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

2/23 春季休業開始(保健学科)

3月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

3/10 春季休業開始(医学科)

## 編集後記

- ふらんすへ行きたしと思へども ふらんすはあまりに遠し せめては新しき背広をきて きままなる旅にいでてみん -

(萩原朔太郎「旅上」より)

彼の詩人はこう詠ったけれど、何ととっても、ときを超え海をも渡り、自由自在に非日常に放ってくれるのが「本」の世界。今夏の烈日でジリジリとんがった心と軀のケア、どうぞ図書館で。

## 図書館だより 第63号

2006年10月1日発行

編集 秋田大学附属図書館出版物編集委員会  
 発行者 秋田大学附属図書館  
 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1  
 TEL 本館018-889-2279 分館018-884-6052  
 FAX 本館018-832-4917 分館018-884-6252  
 E-mail: 本館 riyos@lib.akita-u.ac.jp  
 分館 ibun@lib.akita-u.ac.jp